

『物流・観光面から見た未来への道』

舟形町

フレッシュライフ株式会社 代表取締役 い出井 こうき浩貴



「最上を拓く高規格道路」建設促進合同大会ということで、弊社で関わっている“物流と観光の両面からみた高規格道路促進”について、意見発表させていただきます。まず、私個人と弊社事業について簡単に説明しますと、私は埼玉県の川越市出身で大学卒業後、中古品を売買するリユース関係の会社に就職し5年間勤務しました。中古品を扱う中で、価値のあるものは時間が経過しても価値が下がらないという事を目の当たりにして、では「人が生きていく上で一番重要で価値のあるものはなんなのか。」と考えた時に“食”は絶対に外せないもので、どのような時代になってもなくなる事がない。首都圏は消費をする場所であり生産地ではない、それを生産している地域にこそ価値や可能性があるのではないか。という考えに至り、実際に行ってみて“食”に関わる何かしたいという思いで、平成26年に「舟形町地域おこし協力隊」として着任しました。任期中は町のふるさと納税の推進を中心に活動し、生産者の方たちと繋がりを持ちました。

任期満了後、定住し最上地域の食の流通や地域活性化に関わる事業などを目的とした、フレッシュライフ株式会社を創業。現在は神奈川県にある保育園への給食用のお米の定期納品や、最上郡の魅力ある食材のネットショップでの販売、舟形町のふるさと納税アドバイザーや舟形町観光物産協会事務局などをさせていただいており、物流や観光に深く関わる事業を行っております。今回は実際に事業をしていく中で感じた事を紹介したいと思います。

物流の面では、ふるさと納税や自社物販関係で年間数万件を超える出荷に関わっており、出荷先の半数以上が首都圏となっております。大手通販サイトでは、送料無料や翌日配送が当たり前となっている中で、輸送費の軽減と輸送時間の短縮が大いに求められる時代となっ

ております。さらに、最上地域の場合は、冬場の雪による影響も加味する必要があり、安定供給も重要な課題となります。それらの課題を解決するためにも、高規格道路の整備が進めば、「輸送費の軽減、輸送時間の短縮、安定供給」に繋がる可能性があり、最上地域の魅力的な食や物品を安く早く新鮮な状態で届ける事により、他地域の地場産品とも対等に競う事ができるようになると感じております。

次に観光の面では舟形町観光物産協会が昨年 7 月に町の公共施設を利活用し、地元食材を使ったフレンチ仕込みのレストラン「ラテール」のオープン、ドライブスルーでの特産品販売イベント実施、舟形町特産品サイト「ふなトク」にて購入した商品を実際に現地（舟形町）に受取に来ると町で使える商品券で最大 30 パーセント還元する現地受取型決済サービスという新しい取り組みなど様々な方面から循環を生み出すような仕組みづくりに取り組んでいます。新型コロナウイルスの影響で人の行き来が制限されている中で、自宅から 1、2 時間圏内の地元又は近隣への日帰りやショートステイでの観光、いわゆる「マイクロツーリズム」という言葉が主流となり、山形県内や宮城県を中心とした東北地方での交流促進が重要となっていく中で、高規格道路が整備されることで「より身近で便利、気軽に安全」な往来が可能となると感じております。

物流・観光の両面からみて、高規格道路の整備が進むことは、地域を拓き、人とモノの循環が生まれ、結果として最上地域の発展だけでなく、県内外の発展にも繋がっていくのではないかと思います。そのためにも 1 日も早い高規格道路の整備を切にお願いし、意見発表とさせていただきます。